



NCC 日本キリスト教協議会

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18-24 振替 00180-4-75788
TEL : 03-6302-1919 FAX : 03-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

NATIONAL CHRISTIAN COUNCIL IN JAPAN

JAPAN CHRISTIAN CENTER 24, 2-3-18 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo, 169-0051 JAPAN
Phone : 81-3-6302-1919 Fax : 81-3-6302-1920
E-mail : general@ncc-j.org http://ncc-j.org

総会議長
渡部信
総幹事
金性済

Rev. Makoto WATABE
Moderator
Rev. Dr. Sungjae KIM
General Secretary

2019年3月19日

NCC 主催・宣教会議(創立70周年記念) 開催のご案内

日本キリスト教協議会
議長 渡部 信
総幹事 金 性済
実行委員長 矢萩新一

+主の平和がありますように

2018年に創立70周年を迎えた日本キリスト教協議会(NCC)は、「命の痛み」に共感することを大切に、キリスト者が神さまと人々に仕える歩みを共にすべく、神学・宣教部門と宣教・奉仕部門、国際部門を立て、各委員会をはじめとする奉仕の働きがみ言葉に基づくものであることを確認しながら、社会の課題を教会の祈りとしていく動きが続けられてきました。

今総会期のNCCのテーマは「平和のきずなで結ばれて、ともに歩む」(エフェソ4:3-4)です。神さまと人々を大切にするため、神さまの愛という一つの希望にあずかるために、私たちは平和のきずなで結ばれて一致を保つように招かれています。そして、教会が大切にしてきた<宣教(ケリュグマ)>×青年<奉仕(ディアコニア)>×いのち<証し(マルトゥリア)>×世代間協働<祈り・礼拝(レイトゥルギア)>×多様性<交わり((コイノニア)×包括的な宣教)>というプレ集会から掲げてきたテーマは、私たちにとって欠かすことのできない、信仰者としての道しるべです。また、WCCをはじめ、世界の教会は、神さまの愛に基づいた「正義・平和・いのち」=Justice・Peace・Creationを教会の宣教・牧会・伝道の要として位置付けています。神さまの創造の業である人間や自然の「いのち」を大切にできる私たちであり続けるために、今の時代を生きる私たちに、何が求められ、どのような交わりをつくり出していこうとしているのか、そのために私たちがどのように手をつなぎ、歩んでいこうとしているのかを語り共有する宣教会議となることを願います。

様々な考え方や信仰の証を持った方々との出会い、様々な活動を共にしてきた仲間がいるからこそ、今の私たちがあること覚え、互いに向かい合い、分かち合う関係から、同じ主を見つめ共に歩む共同体として、新たな一步を踏み出す宣教協議会となるように、加盟各教派・団体からの参加をお願いいたします。

記

■ 開催に至る経緯

NCCは、創立50周年にあたる1998年と敗戦後60年にあたる2005年に、2回の宣教会議を開催してきました。その流れを大切にしつつ、2018年度にNCC主催・宣教会議を開催しようと、2016年度と2017年度に4回に亘って「NCC主催・宣教会議2018 プレ集会」を開催して準備を重ねてきました。（詳細は、2018年10月送付済みの『プレ集会報告書』参照）

今総会期に入ってから、各部・委員会の責任者による拡大実行委員会を設置して本格的に「NCC主催・宣教会議」の企画を進めています。

当初2018年度の実施を予定していましたが、新総会期に入り、新体制を整えて実施することが望ましいことから、NCC常議委員会での協議の結果、2019年7月に開催することになりました。

■ 開催日時

2019年7月14日（日）17:00～16日（火）12:00

■ 会場

7月14日（日）・16日（火） 在日本韓国YMCA アジア青少年センター 9F（東京・水道橋）
7月15日（月・休） 日本キリスト教会館 各所（東京・西早稲田）

■ 会費：5,000円

参加者の交通費、宿泊に関する費用は、各教派・団体で手配、ご負担ください。

■ 参加者（コアメンバー）

- **加盟教派** … 各3名（代表者、宣教担当者、青年）
日本基督教団、日本聖公会、日本福音ルーテル教会、日本バプテスト連盟、日本バプテスト同盟、在日大韓基督教会
- **加盟団体** … 各1～3名
日本YMCA同盟、日本YWCA、日本キリスト教婦人矯風会、日本キリスト者医科連盟、日本聖書協会、日本基督教文化協会、キリスト教保育連盟、基督教視聴覚センター
- **準加盟教派、団体** … 各1名
キリスト者政治連盟、アジア保健研修所、日本友和会、東京聖書集会、基督教イースト・エイジャ・ミッション、日本自由メソヂスト教団、日本クリスチャンアカデミー、日本盲人キリスト教伝道協議会、ウェスレー財団、早稲田奉仕園、CWS Japan、国際基督教団、ドイツ語福音教会、キリスト友会日本年会、国際基督教大学教会、東京ユニオンチャーチ、神戸ユニオンチャーチ、ウエスト東京ユニオンチャーチ、横浜ユニオンチャーチ
- **各部・委員会の代表者（財務委員会とエクロフ委員会を除く）** … 各1名
<委員会>
在日外国人の人権、都市農村宣教、女性、青年、平和・核問題、部落差別問題
「障害者」と教会問題、靖国神社問題、信仰と職制、神学・宣教、東アジアの和解と平和、ドイツ語圏教会関係、中国
<部>
教育部、宗教研究所、文書事業部
- **その他**
NCC役員およびゲスト等

- ・コアメンバーは以上の各教派・団体代表者、各部・委員会代表者約60名です。
- ・原則、全日参加をお願いします。
- ・1名以上のご参加は、ジェンダー、世代バランスにご配慮をお願いします。

■ 問合せ・申込先: NCC 事務局 general@ncc-j.org

- 各教派・団体で派遣する参加者を決めていただき、参加者各自でお申し込みください。
- 申込みは、下記 URL または右図 QR コード Web フォームからお願いいたします。
<https://bit.ly/2VKAUub> ※申込締め切りは 5 月 10 日 (金) です。
- 申込みの際に、2 日目の各部・委員会報告、テーマ分科会のご希望をお伺いします。



■ プログラム、スケジュール

1 日目 7/14 (日) 会場：在日本韓国 YMCA 9 階 国際ホール この日は公開プログラムです。どなたでも参加頂けます。	
17:00～19:00	NCC 創立 70 周年記念礼拝 … ★公開 説教：NCC 総幹事 金 性済
19:00～21:00	パネルディスカッション … ★公開 『エキュメニカル運動の過去、現在、未来』 コーディネーター：西原美香子 パネラー：有住 航、平良愛香、藤原佐和子、吉高 叶

2 日目 7/15 (月・休) 会場：日本キリスト教会館 各所 9:00～15:00 は NCC 常議員、各部・委員会の方はどなたでも参加できます。 15:00 以降は、コアメンバー約 60 名のみの参加となります。						
各部・委員会ブース						
9:30～ 11:00	都市農村宣教 90 分	靖国神社問題 90 分	部落差別問題 90 分	東アジアの和解と平和 90 分	宗教研究所 60 分 「障害者」と教会問題 30 分	
	昼休憩、各部・委員会ブース					
11:00～ 13:00	各部・委員会ブース					
13:00～ 14:30	女性 90 分	ドイツ語圏教会関係 90 分	在日外国人の人権 90 分	平和・核問題 90 分	中国 30 分 青年 60 分	教育部 60 分
	休憩・委員会ブース					
14:30～ 15:00	各部・委員会ブース					
15:00～ 16:30	テーマ分科会 宣教 (ケリュグマ)	テーマ分科会 奉仕 (ディアコニア)	テーマ分科会 証し (マルトウリア)	テーマ分科会 祈り・礼拝 (leiturgia)		
16:30～ 17:00	休憩					
17:00～ 18:30	テーマ分科会 宣教	テーマ分科会 奉仕	テーマ分科会 証し	テーマ分科会 祈り・礼拝		
18:30～ 19:30	全体で共有					

■ テーマ分科会

初日の礼拝説教、パネルディスカッション、2 日目の各部・委員会報告を受けて、エキュメニカル運動にとって大切な「宣教」「奉仕」「証し」「祈り・礼拝」の 4 つのテーマのもと、主にある交わり (コイノニア) となるための宣教宣言に向けて、グループディスカッションをします。

3 日目 7/16 (火) 会場：在日本韓国 YMCA 9 階 国際ホール 終日コアメンバーのみの参加となります。	
9:30～11:00	全体で分かち合い、宣教宣言採択
11:30～12:00	閉会礼拝 (宣教宣言読み上げ)

■ 各部・委員会の報告内容 午前の部

委員会名	報告概要
都市農村宣教	<p>NCC-URMは、キリスト教をベースにした日本国内の団体・個人とネットワークをもち都市・農村問題を中心とした社会問題に取り組んでまいりました。今回は特に東北アジアの命と平和と人権を創り出すキリスト者のはたらきについて次の通りご報告します。</p> <p>①7月22日～24日大阪で開催する「第12回日韓URM協議会」の趣旨や内容についてご報告し、日韓双方での宣教活動に資する会合を目指します。</p> <p>②2010年3月の第19回NCC-URM全国協議会でも取り組んだ「三里塚問題」について今回取り上げ、クリスチャンであった故戸村一作委員長の遺志や成田問題の和解の為にご尽力された隅谷三喜男先生のはたらきを想起しつつ、現在も権力者の農地取り上げに抗して、命の農地を守る市東孝雄さんの働きを中心にご報告いたします。本件は永井満先生や星野正興先生も取り組まれました。</p>
靖国神社問題	<p>「天皇の代替わり・このまま「天皇の国」化が進めば、どうなる教会？」</p> <p>2019年は天皇の代替わりの年、皇居の中で年間を通じて行われている神道行事が、国事行為、公的行為となって私たちの前面に現れます。天皇は天照大神の子孫として絶対の存在となり、「天皇が主である」事が前提となる国作りがまた進みます。</p> <p>これから日本の教会はどうなるのか？そのヒントは74年前の日本の教会の歴史にあります。天皇を主とする国の中で、日本の教会はどのような礼拝をささげたのか。戦前に日本の教会がささげた、宮城遥拝から始まり、君が代が続き、軍歌のような讃美歌が続く、そのような礼拝を記録に基づいて再現してみたいと思います。是非一緒に考えましょう。このまま行けば、どうなる？教会！</p>
部落差別問題	<p>「部落差別をなくすため、私たちにできること」</p> <p>部落差別を知っていますか？言葉としてではなく、歴史(過去)としてではなく、今、健在も続く日本で起こっている問題として。</p> <p>誰が、どんな理由で差別されるのか？凝り固まった私たちの歴史認識や価値観を丁寧に少しずつ解きほぐしていくと、その理由に気づきます。そして、その理由を吹いて飛ばせるほど、新たな価値観が与えられます。部落差別をなくすため、私にできる生き方が見つかります。</p> <p>当日は部落差別問題委員会の活動の紹介も含めて、みなさまと共に、まなび、かたりあう時を提供します。</p>
東アジアの 和解と平和	<p>東アジアの和解と平和委員会は、憲法9条をはじめとする日本国憲法改定問題、立憲民主主義と安保法制問題、朝鮮半島における平和統一の課題、台湾、沖縄との連帯、朝鮮学校無償化排除の問題など、多岐にわたる課題と領域に取り組んできました。今後も、「東アジア」という枠組みで和解と平和の課題を広く取り組んでいく必要があると同時に、時代状況に合わせていま取り組むべき課題をしっかりと捉え、具体的な行動に移していくことも求められています。</p> <p>今回の宣教会議では、東アジアの平和と和解委員会として取り組んでいることの一つとして、「朝鮮学校無償化排除の問題」について、佐野通夫（こども教育宝仙大学）による発題を設定し共に学びを深めたいと願っています。</p>
宗教研究所	<p>日本における福音の宣教と奉仕のために、日本の諸宗教の研究と諸宗教の人々と</p>

	<p>の対話と相互理解が必要だという当研究所の設立目的は、多文化・諸宗教の共生の世界的現況にあって重い課題です。60年に及ぶ活動の中心の一つは「諸宗教を学ぶゼミナール」で、日本の宗教（日本におけるユダヤ教やイスラームも含め）についての講義と実地研修を40回続けてきたことです。多くの教会関係者が参加されて理解と対話を重ねました。もう一つは2002年以来、ドイツのEMS（連帯する福音の宣教会）との提携で続けている「日本の諸宗教—研修と対話」(Interreligious Studies in Japan Program 略称 ISJP) です。主にヨーロッパからの神学生（現職の牧師や一般信徒も）に日本の諸宗教や宗教文化を体験学習してもらうプログラムです。日本での研修が彼らの福音宣教を豊かにするだけでなく、プログラムをとおして交流する日本の教会や若者たちにも影響を与えることを期待していますが、研究機関としての限界もあります。エキュメニズムや諸宗教対話のいろいろなムーブメントへの関わりをとおして、課題の整理と展望を模索しています。活動の成果と情報は主に出版物での発信ですが、電子媒体の可能性も検討中です。</p>
<p>「障害者」と教会問題</p>	<p>平和を実現する者 – 差別からの解放へー</p> <p>「障害者」と教会問題委員会は、差別することから、また差別されることから解放される社会の実現を願い祈って協働しています。</p> <p>1981年の「国際障害者年」以来、毎年11月の第2週を「障害者」週間として守るように、呼びかけて来ました。また、ニュースレターを、全国の3,000余りの教会に発送し、生活するすべての人々が、安心して安全に暮らしていける社会こそが「平和」であることを訴えています。</p> <p>本当の「平和の状態」は、いわゆる戦争をしていない状態ではなく、そこに生活するすべての人々が安心して暮らしていける状態、と考えています。平和は、自然に存在するものではなく、常につくり出すものです。キリストの平和をつくり出す者になりたいと願っています。</p> <p>日韓キリスト教「障害者」交流セミナーを、2年ごとに開催しており、昨年、第9回日韓キリスト教「障害者」交流セミナーを韓国の釜山で開催しました。今後この交流を、更に台湾の仲間とも協働し、東アジアの平和を一緒に作りたいと、希望しています。</p> <p>「排除」、「非寛容」を良しとする社会にあって、障害者を含むマイノリティの者たちこそ、私たちの社会が、神さまの導きにより「愛と配慮に満ちた平和」の状態へと変えられてゆくための役目を与えられているのではないのでしょうか。</p>

■ 各部・委員会の報告内容 午後の部

委員会名	報告概要
女性	<p>日本軍「慰安婦」の問題に取り組むことは、かつてアジアの国々に対して行った植民地支配への贖罪であることと、そこで行われた女性や子どもに対する戦時性暴力という大きな人権侵害が、いまだに解決していないという反省の中で続けられてきました。</p> <p>女性委員会は、「性奴隷」とされた被害者と同じ〈性〉を持つ女性として、この問題が他人事ではなく、怒りや悲しみを共感してきました。</p> <p>1991年8月14日に、ソウルの挺身隊問題対策協議会を訪れた金学順（きむ・はくすん）さんが、「神が私をいままで生かしてくれたのは、これに対して闘えという意味だった」と記者会見を開き、自らが日本軍の「慰安婦」だったことを証言しま</p>

	<p>した。これがきっかけとなり、韓国内外から被害女性達が声を上げ始めました。そして現在では、この日を国連世界記憶遺産に登録するため、「8. 14 メモリアルデー」として活動中です。</p>
<p>ドイツ語圏 教会関係</p>	<p>当委員会が、加盟教派と加盟団体の協力を得て、NCC 副議長を団長として五名の代表と二名の参加者を派遣し、4月29日から5月6日までスイスで開催される、「スイス+ドイツ+日本・教会協議会」の報告を中心に通常の活動についても加えて報告します。三カ国の教会協議会は、2016年に日本で開催された、戦後直後から続いている日独教会会議にスイスプロテスタント連盟の2名の代表を始めて迎え、大変実りがあった事から始まります。教会のディアコニアは初代教会から常に重視されてきた働きですが、NCC 内部で、『宣教』と『社会奉仕』のどちらが教会の第一の課題かとの議論もあり、加盟教団の中でも同様な神学的状況が見られます。今年から宗教改革500年記念が開始する「もう一つの宗教改革」の伝統をひく教会の神学と活動から学びとるものを、この報告活動でNCCの内部で共有したいと願っています。当委員会は2011年の東北大地震時にドイツの教会からの支援を取り次いだことから、今に至までフクシマの地との関わりをつづけ、2016年の協議会の報告書（近日公刊）にあるように「耳を傾け共に歩む」教会の歩みを示されてきました。</p>
<p>在日外国人の 人権</p>	<p>テーマ「多様化する社会の中で - これからの委員会が取り組む課題」</p> <p>在日外国人の人権委員会では多民族多文化共生社会の実現を目指し、2011年の東日本大震災以来、外国人住民基本法の制定を求める全国キリスト教連絡協議会（外キ協）と協力しながら、被災地での外国人住民支援を続けてきました。</p> <p>また2015年に行われた第3回マイノリティと宣教国際会議の開催に協力し、その後設立されたマイノリティ宣教センター、そして外キ協と協力して、外国にルーツを持ちつつ日本で生活する人びとの声を聴く「からふるカフェ」を2017年から開催し、2018年にはその第1期の記録をまんが化したブックレット「からふるな仲間たち」を発行しました。2018年冬からは「からふるカフェ」第2期を開始しています。</p> <p>今回の宣教会議では「からふるカフェ特別編」として、震災後の福島で生活する外国人女性の支援の取り組みについてゲストを招いて分かち合いたいと思います。そして、これからの日本社会の中で多様性を大切なものとしていくためのキリスト教会の使命について共に考えてみたいと思います。</p>
<p>平和・核問題</p>	<p>平和・環境・人権の問題はつながっています。そして特に、世界で最も深刻な平和の課題である核について、権力は核を手放したくないために、それを維持する方法として、環境の問題にも人権の問題にも、非常に甘い規制を行ってきたと言えます。聖書の教えは、権力者が弱者を虐げる社会を是正していく必要があることを告げています。予言者達の働きや、主イエスの山上の垂訓などにもそれは明らかに示されています。わたしたちの委員会は、その教えのゆえに活動しています。</p> <p>世界の大国とその利権に群がる同盟国は、貧しい地域と労働者に人々の嫌がるものを押しつけ、それは何も問題ないかのように口裏を合わせてきました。国によっては、核保有国の便宜を図るだけでなく、自らも核保有を目指し準備を進めてきています。何度も被爆の体験をした国なのに、ドイツのように脱原発に舵を切るのではなく、原発を再稼働し輸出までめざしていることもそれと関係していると思われます。長年の改憲の野望も、これらと結びついています。自民党は結党以来ずっ</p>

	と、改憲・再軍備・原子力の推進が党の綱領の三本柱となっています。これら権力の野望を阻止し、平和でいのちの豊かな社会を回復させていくことを、当委員会はめざしています。
中国	<p>1983年より開始した日本キリスト教協議会と中国基督教两会（＝中国基督教協会及び中国基督教三自愛国運動委員会）の友好関係は、定期的にお互いを訪問することで、其々の国での働きを分かち合い、学びながら構築されて参りました。過去には、複数回に渡り日本語教師の派遣をするなど草の根レベルでの交流、親睦も深めてきました。</p> <p>中国教会の目覚ましい成長と社会への貢献をとおした愛の働きは、日本の教会も学ぶべきところが多くあります。この度の宣教会議のセッションが、長年の中国基督教两会とNCC中国委員会の交わりをお分かちするよい機会となれば幸いです。</p>
青年	<p>今までの「エキュメニカルユースの集い」を中心にご報告したいと思います。青年委員会は、NCCという日本のエキュメニカルな連帯の中でも、教会青年の立場から同じ『青年』についてあれこれ考え、やれる事を共にやってみようとしているつながりです。『青年』の定義は必ずしもひとつではありませんが、私たちは”エキュメニカル”と”エンパワメント”という考え方を大切にしつつ、様々な教派・団体の青年が集まって、活動を紹介しあったり、生活のなかで考えている事を分かち合ったり、時には共に祈ったりする「エキュメニカルユースの集い」というイベントを年に2～3回ほど開催しています。</p> <p>現在の日本社会にある青年たちの中には、日々の労働や様々な人間関係、自らの生活や将来、ときに教会生活にも「つらさ」を抱える人が少なくありません。「エキュメニカルユースの集い」は”神様”と色んな形でつながりをもつ青年たちが集う場所です。この日本キリスト教界のひろがりの中には、本当にいろんな青年がいる。そんな出会いの喜びを、一緒に感じる事ができるつながりを目指し活動してきました。その活動の歩みをご報告し、与えられた恵みとこれからの課題などをお分かちする予定です。</p>
教育部	<p>エキュメニカル運動の協働（教派・団体・キリスト教学校・市民・他宗教との協働）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「キリスト教教育週間・平和のきずな献金」 第69回となります。10月第3日曜から第4日曜を教育週間とし、国内外の教育支援活動を分かち合い、共に祈り、献金を捧げます。毎年学習教材も作成します。 2. 「全国教会教育フェスティバル」 第1回2007年東京、第2回（2011年松本）、第3回（2013年仙台）と継続し、9月に第4回を東京で開催します。子どもからおとなまでが参加でき、多様性を大切にしました内容です。教会教育に反映できるよう、子どもたちを取り巻く状況や日本社会の諸問題についても向きあいます。 3. 「エキュメニズム研修会」 神学校新卒者を対象とし、2000年から毎年3月に開催しています。午前中は公開講演会、午後は会館内外のキリスト教団体の働きを学びます。神学生どうしの出会い、各団体との出会いを通して視野を広げ、派遣礼拝によって各地へと赴任されます。 4. 「平和教育資料センター」 2017年開設。国内外からの来館者と共に戦前・戦中・戦後のキリスト教教育の

	<p>歴史を検証し、国家主義教育や歴史修正主義に対峙します。</p> <p>5. 「人権教育セミナー」 全国キリスト教学校人権教育研究協議会の事務局を置き、後援しています。毎夏のセミナーは、各地のカトリック・プロテスタント校を会場とし、今年で30回となります。「現地研修」を通して地域の活動も学びます。</p> <p>6. 「宗教者平和ネット・宗教者9条の和」 総主事が呼びかけ人に加わり、他宗教の方々と共に内閣府要請、院内集会、路上祈禱をします。</p>
--	--

※ 神学・宣教委員会と信仰と職制委員会は、宣教宣言のまとめに協力します。

問合せ・申込先: NCC 事務局 general@ncc-j.org